

長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科
(3年情報会計科生徒)

私は、長崎国際大学、人間社会学部、国際観光学科に指定校推薦枠で合格しました。私が入試までに行ったことは、主に二つあります。一つ目は大学に入学後、自分は何を学びたいのか、卒業後、何の職に就きたいかを明確にし、それについて調べることです。二つ目は、入試対策の面接や小論文の練習をすることでした。

私の将来の夢は、ホテルのコンシェルジュになることです。しかし、私がホテルのコンシェルジュになりたいと考えた時には、まだはっきりとその仕事内容を知りませんでした。そこでホテルのコンシェルジュになるために必要な力、求められている人材をインターネット等で調べました。必要な力は、ホテルで働くための基礎知識、日本人のみを相手にするのではないため、より高い語学力、そして観光学も必要であるということを知りました。その三点に力を入れプロフェッショナルの先生方から、座学以外にも実体験を通して、学べる大学が長崎国際大学であったため志望しました。

私は、面接や小論文の練習を繰り返す中で、もっと早く取り組むべきだったと後悔しています。進路担当の先生や、担任の先生、先輩、そして大学の入試よりも先に面接を終えている就職した友人も全員「早く取り組んだほうがいい」と話していました。入試を終えた今だからこそ、本当にそう思います。面接でも小論文でも、練習をすることで質問に対する答えのクオリティが上がることや、文章を書く速さ、内容が充実することはもちろん、自分に自信がきます。入試当日はかなり緊張します。しかし、面接練習を多く行うことで自信がつき、不安な気持ちを少し軽減してくれます。

一、二年生に伝えたいことは、二つあります。一つ目は、試験対策を早くから取り組んだほうがいいということです。就職する人は夏休みも学校にきたり、家で質問に対する答え必死に考えたりしています。私はそんな姿を見て、十一月中旬の試験という変な余裕もあったため、そろそろ考えないと、そろそろ先生に添削してもらわないと、と思いながらも特に何もしていませんでした。だんだん試験日が迫ってきて、焦ってバタバタしました。練習をしすぎるなんてことはないし、練習の積み重ねで損をすることはありません。たくさん練習してください。二つ目は、就職希望者の人にも言えることで、面接、小論文などの指導をしてくださった先生に感謝する気持ちを持ち続けてください。私は、取り組むのが遅かったにも関わらず、面接、小論文とも先生方にご指導していただけたからこそ合格できました。さらに、先生方が練習の中で、掛けてくれる言葉の一つ一つが自分の力になり、私のために時間を割いて指導していただいたからには「絶対合格したい」という気持ちが強くなりました。

私は、合格通知を担当の先生から受け取った時、とてもうれしい気持ちになったとともに大学に行くまでに必要な知識を学ばなければならないと思いました。もう今度は後悔しないように、早くから取り組んでいきます。これから試験を受ける皆さんも自分の将来に向けて決して後悔しないように取り組んでいってください。